

あいち病害虫情報 最新情報

平成 24 年 5 月 17 日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

ムギの病害

ムギ類赤かび病は各地で発生が確認されており、発生量が多いほ場もあります。5月15日のまとまった降雨で発生量が増加すると予測されます。降雨前に農薬による防除を実施していない場合は速やかに行いましょう。収穫期が近づいているので、農薬を散布する場合は使用回数や収穫前日数に留意し、飛散防止にも十分注意しましょう。

果樹カメムシ類

チャバネアオカメムシの越冬世代成虫は、予察灯には今のところほとんど誘殺されていませんが、フェロモントラップにおける誘殺数が一部の地域で多くなってきました。また、山林に近い果樹園だけでなく、平坦部でも目撃されています。来週にかけて気温が平年より高いと見込まれるので、飛来状況に十分注意してください。詳細は、本日発表の「果樹カメムシ情報第2号」を参照してください。

果樹の病害

落葉果樹の生育は、天候不順の影響からやや遅くなっていますが、その程度は樹種により違いがあります。また、連続した降雨があると、病害の発生が懸念されます。生育状況と天気予報に注意して、適期防除を心がけましょう。

風の強い日が続いたため、モモせん孔細菌病の発生が懸念されます。枝病斑は見つけ次第切除して適切に処分し、防除しましょう。

ナシ黒星病の発生がやや多く、幼果での発生も見られます。発病を確認したら、ただちに防除しましょう。詳細は、本日発表の「ナシ黒星病情報第1号」を参照してください。

ブドウ黒とう病は、梅雨明けまで降雨のたびに二次伝染し、発病が拡大します。昨年発生したほ場では、防除を徹底しましょう。

ブドウ晩腐病は、開花直前から防除適期に入ります。開花期の重点防除時期を逃さないようにしましょう。

果樹の害虫

フェロモントラップにおけるモモハモグリガの誘殺数は、今のところ少ない状況です。防除適期である第2世代がふ化する時期は、有効積算温度から昨年よりやや早くなると予

測します。防除適期を逃さないように防除しましょう。

ウメシロカイガラムシとクワシロカイガラムシの防除適期である第1世代ふ化幼虫の発生ピーク時期は、ウメシロカイガラムシは5月13日～18日、クワシロカイガラムシは5月16日～21日と予測します。5月1日発表の「モモのカイガラムシ類情報第1号」を参考に、適期防除に努めましょう。

フジコナカイガラムシの生育は、有効積算温度から昨年並かやや遅れており、5月下旬に卵のうが発生すると予測します。ほ場で卵のうを見つけた場合、ふ化状況を確認し、防除適期であるふ化最盛期に、粗皮の隙間まで農薬がかかるように防除しましょう。

チャノコカクモンハマキのフェロモントラップにおける誘殺数は、平年より少ない状況です。防除適期であるふ化最盛期は昨年よりやや早いと予測されるので、防除適期を逃さないように注意しましょう。

チャノキイロアザミウマ第1世代成虫の発生ピーク時期は、昨年並か昨年より1～4日早いと予測します。ブドウでは、袋がけ前に防除を徹底することが重要です。本日発表の「チャノキイロアザミウマ情報第1号」を参考に、防除適期を逃さないようにしましょう。

キクの病害虫

露地ギクは定植時期に入っています。定植用苗は、白さび病などの感染がないものを用いましょう。

- 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも洗いもれがないようにしましょう。
- 農薬は安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。
- 防除の際は、周辺作物に飛散しないよう注意しましょう。
 - ・ 防除面積や用途に応じた防除器具、散布ノズルを選択しましょう。
 - ・ 散布するときは朝夕など風の影響が少ない時間を選びましょう。
 - ・ 風向きに注意し、他の作物の方向に散布しないように作業しましょう。
 - ・ 飛散の恐れがあるときは、近接ほ場の生産者に連絡しておきましょう。

問い合わせ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
TEL 0561-62-0085 FAX 0561-63-7820